

建築物名称	(仮称)株北里コーポレーション 新社屋
受付日	令和元年10月29日
建物所在地	静岡県富士市柳島字川原100-10の内、100-11の内 (仮換地 19街区1-2の内、1-3の内)
構造規模等	鉄骨造／地上4階／延床面積4,891.23平方メートル／新築
建物用途区分	事務所
建築主	株式会社北里コーポレーション 代表取締役 井上 太
設計者	影山建設株式会社一級建築士事務所 佐藤 正一
工事完了予定日	令和2年9月30日

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)榊北里コーポレーション 新社	階数	地上4階
建設地	静岡県富士市柳島字川原100-10の	構造	S造
用途地域	二種住居、法第22条区域、第1種高	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 竣工	評価の実施日	2019年10月23日
敷地面積	7,413 m <sup>2</sup>	作成者	佐藤 正一
建築面積	1,256 m <sup>2</sup>	確認日	2019年10月23日
延床面積	4,891 m <sup>2</sup>	確認者	影山 晋司



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.9

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
CASBEE静岡2016年版による評価結果		
<b>Q1 室内環境</b> 複層ガラスを採用し、熱負荷低減に配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> ・躯体と仕上げ・設備配管・配線等、工種別の解体が容易にできるようにした。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 特になし
<b>LR1 エネルギー</b> ・外皮性能の向上及び1次エネルギー消費量を抑える様努めた。 省エネ届 建物全体BEIm=0.71 BPIm=0.74 ・LED照明の採用するなど、設備システムの高効率化に配慮した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水型の衛生設備を採用した。 ・発泡剤を用いた断熱材等を使用しておらず、環境に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・駐輪場・駐車場の台数の確保、導入路・配置等に配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)樹北里コーポレーション 新社屋	BEE	0.5	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3	/5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.3	/5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.0	/5		がんばろう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.0	/5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上
					がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点		3.3	
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>					
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①ダブルスキンの採用による開口部の温熱環境の向上。 ②ライトシェルフの採用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦ダブルスキンによる高断熱化。 ⑧自然通風、ライトシェルフによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪雨水利用設備の導入による雨水の有効利用。 ⑫地下躯体部分における高炉セメントの採用。 ⑬不活性ガス(CO2)消火設備の導入。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭省エネルギー対策と、高炉セメントの採用。 ⑮外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	Q-1	2	2.1	2.1.2	① 外皮性能
	Q-1	3	3.1	3.1.3	② 昼光利用設備
			3.2	3.2.1	③ 昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④ 躯体材料の耐用年数
			2.2.2	2.2.2	④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔
		2.2.3	2.2.3	④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
		2.2.4	2.2.4	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔	
		2.2.5	2.2.5	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔	
		2.2.6	2.2.6	④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	Q-3	1		⑤ 生物環境の保全と創出	
		3	3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	LR-1	1		⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
		2		⑧ 自然エネルギー利用	
		3		⑨ 設備システムの高効率化	
		4	4.1	⑩ モニタリング	
			4.2	⑩ 運用管理体制	
	LR-2	1	1.1	⑪ 節水	
			1.2	1.2.1	
				⑪ 雨水利用システム導入の有無	
				⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	
		2	2.1	⑫ 材料使用量の削減	
			2.1.2	⑫ 既存建築躯体等の継続使用	
			2.1.3	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
			2.1.4	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
			2.1.5	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
			2.1.6	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	
		3	3.1	⑬ 有害物質を含まない材料の使用	
			3.2	⑬ 消火剤	
			3.2.2	⑬ 断熱材	
			3.2.3	⑬ 冷媒	
	LR-3	1		⑭ 地球温暖化への配慮	
		2	2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点		2.3	
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑰制振装置の採用。</p>	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯ 耐震性
				2.1.2	⑯ 免震・制振性能
			2.4	2.4.1	⑰ 空調・換気設備
			2.4.2	⑰ 給排水・衛生設備	
			2.4.3	⑰ 電気設備	
			2.4.4	⑰ 機械・配管支持方法	
			2.4.5	⑰ 通信・情報設備	
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点		2.0	
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑街並みに配慮し、木材等自然素材を活用した外装とした。</p>	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画
			3	3.1	3.1.1
				3.1.2	⑲ 空間の形状・自由さ
	Q-3	3	3.1		㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点		2.0	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑳敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ㉒緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉓温熱環境悪化の改善)</p> <p>㉓外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	Q-3	1		⑳ 生物環境の保全と創出	
			2		㉑ まちなみ景観への配慮
			3	3.2	㉒ 敷地内温熱環境の向上
	LR-3	2	2.2	㉓ 温熱環境悪化の改善	